

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 荻野小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】

校長名 押切 晴美

学校教育目標

学校経営の方針

たしかな力と豊かな心をもつたくましい児童の育成

荻野の歴史や自然、人とのかかわりの中で、地域の教育力を活用し、地域とともに歩む教育活動を推進する。

今年度の重点目標

○自立心と自主性・主体性の涵養 ○あいさつを交わし合える関係の構築 ○地域と共にある学校づくりの推進

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
基礎的・基本的な内容の定着を図るための実践に取り組む。	1	少人数指導、T・T指導、個別指導に応じた体制作り。算数ウィークなどの実施。	高学年が低学年の学習を支援する算数ウィークを実施し、算数支援の新たな方法ができた。個別指導については、ニーズが増大する一方で、配置できる人員が足りないことが課題である。	算数の少人数指導を充実させる。ボランティアの人員確保に努める。子ども同士で学び合う学習も含め、学習形態等を工夫する。
主体的・対話的で深い学びを生み出すための工夫、授業改善をする。	1	三角ロジックを取り入れた指導。協働による課題解決。	ペア学習、グループ学習、GIGA端末などを授業の中で取り入れ、学習に効果がみられる。児童の主体的な発表活動は継続的に取り組む必要がある。	根拠を明確にし、理由を述べて、主張する話し合い活動の場を増やす。少人数で話し合わせる学習形態を工夫する。
学びに向かう意欲を培う。	1	学習規律の徹底。体験活動の充実。外部講師の招聘。主体的な学びの評価の研究。	SDGsを取り入れた学習で具体的な対象を定め、地域内外の外部講師により、意欲化が図られた。児童自らが学習を調整することには課題が残る。	児童が学びを調整する学習活動の支援の仕方を工夫する。児童の学習の振り返りを次の学習の意欲化につなげられるように指導方法を工夫していく。
自他を愛し、いじめを許さない精神を養う。	2・3	人権週間やピンクシャツデーの取組。児童教育相談の実施。Y-Pアセスメントの実施・活用。スマホ・ケータイ安全教室。	児童教育相談週間を学期に1回設け、生活アンケートをとり、児童一人一人と話をすることで、いじめの未然防止、早期発見の対応ができています。Y-Pを基にした学級活動の充実を図る。	教育相談を形骸化させないために相談のめあてを明確にして実施する。学校教育全体で、自他を認める気持ちを涵養するよう支援の機会を増やしていく。
素直に感動する心を育てる。	2	道徳教育の充実。本の読み聞かせ。音楽鑑賞教室の実施。	音楽に心を動かされる体験ができ、読み聞かせ、人形劇を鑑賞することで、心を開き感動する経験ができた。費用負担がない形での音楽鑑賞を実現したい。	読み聞かせの回数増加、地域の方の演奏会の実施など、心が開かれる場を増やす。無理のない音楽鑑賞教室の実施を模索する。
互いに励まし認め合い、協力し合う姿勢を育む。	2・3	七沢自然教室・縦割り班活動、縦割り清掃活動の継続的な実施。長昼休みのクラス遊びの充実。	縦割り清掃も行い、互いに協力し合う場が広がってきた。縦割り班活動の運営方法やリーダーとしての振る舞いなどを継続的に指導してきた。学級での友達関係の構築も大切にしていく。	縦割り班活動が充実するように事前指導を継続的に実施する。単学級のためクラス替えができないことを念頭に同学年の児童の関係作りも丁寧に行う。
地域や自然を愛し、大切にすることを養う。	1・3	1, 2先生なかよし遠足、3年生バードウォッチング、6年生地層見学など、学年に応じた地域活動。	荻野の豊かな自然に触れることで、自然や地域を大切にすることが高まった。地域の良さを振り返る活動の充実を図る必要がある。	荻野の自然に触れる活動を継続していく。栽培活動の再開を目指し取り組んでいく。地域の方との交流を継続的に実施していく。

基礎的な体力・精神力をつける。	1・2	持久走週間、なわとび週間における全校運動の実施。	持久走では走る気持ち良さを改めて実感していた。縄跳びも自発的に取り組む様子が見られた。しかし、毎日の生活では、運動に進んで取り組めていない児童も見られた。	全校運動を行う時間、回数を確保し、集中して運動を行うようにさせたい。また日頃から運動に仕向けるように声掛けなどを行っていく。
適切な食習慣を身に付ける。	1・2	日常の指導や給食週間を通した食の大切さの指導。食物アレルギー対応。	栄養士他職員が教室を回り、少しずつでも食べさせる指導を継続し、効果を上げた。栄養を意識した食事のあり方など、継続した指導が必要である。	継続した食育指導を実施する。SDGsと関連付けた残菜を減らす取組なども併せて実施していきたい。
安全・安心への意識を高める。	2・3	避難訓練、登下校の指導、安心教室、交通安全教室、スマホ・ケータイ安全教室の実施。	交通安全教室として、1・2年生が校庭での歩行、3・4年生が自転車の乗り方の指導を実施した。避難訓練も継続的に実施してきた。スマホの使い方は継続的な指導が必要である。	よりよい不審者対応訓練の在り方、交通安全指導の充実を検討する。大規模地震時の引き渡しについて4校で共通理解を深める。
基本的な生活習慣の確立を図る。	1・2	チャイム着席、手洗い、マスク着用の励行。身の回りの荷物の置き方指導などを実施。	チャイム着席によって、児童が時間を守る意識をしっかりと持てた。校内でのあいさつも増えてきている。毎年継続して指導をしていく。	荻野小学校スタンダード(生活の決まりの一覧表)を配付し、家庭の協力を仰ぎ、繰り返し指導をしていく。全職員が同じ姿勢で指導していく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校教育活動全体について、今年度特に充実させた取組について報告した。報告内容に対して、登下校時の荷物の軽量化に関わり、クロムブックの持ち帰り時の配慮を求められた。児童アンケートでは進んで学習していると答える子どもが多いが、保護者からはその内容が少ないことについては、質問の仕方に違いがあることを指摘され、おむね学習への取組も良好であることを認めていただいた。

今年度の学校経営のまとめ・次年度への改善の方針

地域の自然や歴史、人材などの教育資源を活用した教育活動に取り組み、地域に根差した学校経営を行うことができた。SDGsの視点を取り入れることで、総合的な学習の活性化と児童の体験的な学習や自ら考え行動させる学習を増やすことができた。口座振り込みによる集金事務が定着し、安全で正確に行うことができるようになった。勤務時間を意識した働き方の呼びかけも行い、職員にも意識している様子が見られている。児童指導、教育相談コーディネーターの充実した支援のおかげで、児童のトラブルを丁寧に指導することができ、保護者への説明も丁寧に行えた。児童数が減少し、清掃活動が十分に行えない反省から、縦割り班での清掃に切り替え、充実した清掃活動ができ、児童の交流も深まった。学校規模の縮小により、行事等の実施方法変更の必要性が顕著になってきている。

次年度は、「自他尊重」を学校運営の中心に置き、児童、職員が生き生きと生活し、学びを深められるようにしていく。さらに新たな教育課題に対して、地域や保護者のニーズを踏まえ、取組の重点化を図りながら、適切に対応していきたい。